

宮崎県農政水産部
畜産・口蹄疫復興対策局
畜産課・家畜防疫対策室長 殿

管理獣医師の診療に係る調査について(回答)
上記の件について、下記のとおり回答します。

記

- (1) 体温・糞便の量・質・食欲・飲水・排尿の有無・四肢の腫張・被毛の光沢
反り・有無・鼻汁・発咳の有無について、電話にて聞き取り。
食滞・アシドーシスと診断した。生菌剤(ビオスリー)・健胃整腸剤(モーサン)
の経口投与を指示した。
投与対象牛 → 食欲不振牛
頭 数 → 20頭
投与量 → ビオスリー1頭当り50g、モーサン1頭当り100g。
- (2) 私は、平成17年4月から、各牧場()の牛群を診て来ましたが
肥育牛については、導入時の呼吸器・消化器症状・肥育中期のビクス・
後期の急性鼓張症・H.S等があり、過去の経験上から食欲廃絶まで至らず
不振・微熱・軽度の発咳・鼻汁排泄は、各肥育ステージに係らず、
牛群中には、散見されており、食欲改善処置・健胃整腸剤・生菌剤を
投与すれば、治癒する物を、過去にも経験していたので、今回の呼吸器症状
も軽度の一過性の物で、食欲改善処置すれば、治癒するものと、
判断した。

(3) 治ゆ(食欲改善)した牛もいれば、新たに食欲不振に落ちいる牛が出て出荷直前にて、ペニシリン/モナス(H-S)で急死でもさくら、大変なめてペニシリン投与を指示した。

投与対象牛 → 1群中(8頭)に1頭でもいれば、予防的に全頭投与

頭数 → 725頭

投与量 → 1頭当り10ml(300kg以上)、1頭当り5ml(300kg以下)

(4) (3)で記している様に、食欲改善を置すれば、治ゆた牛もいれば、新たに食欲不振に落ちいる牛が出てきた。牛群全体に一斉に急速に発症するなら、ウイルス性(RS、バウルフル)を疑うが、牧場の西サイドの牛舎から中の方に散発的に拡散してきて、細菌性(マイコ・HS)を疑った。HSは成牛の呼吸器症状初期に出て来るHSから急死するので、確定診断では無いが、予防的に被害の拡散を未然に防ぐ。牛群コントロールとして、ペニシリン投与を指示した。

2. 牛群全体に抗生物質を投与するような状況事例はありませんが、平成20年1月初旬に[]で食滞(食欲不振)が出た事があります。この時は牛舎の1棟片側のみで、確か8スパン64頭だったと鬼います。食欲改善剤置(ビオスリー、モーサン経口投与)で回復治ゆに事例があります。

3. 有り(転入21頭, 転出78頭, 死亡8頭)

